

## 主な論点

## 対応方向

### 1. 基本目標(スローガン)について

#### 儲かる農林水産業の実現と誇れるふるさとの形成（令和2年9月時点）

- 「儲かる」という意味を調べるとあまりいい解釈されてない。(農業振興審議会)
- もっと誇れる農業っていう、そんなところを出せたら。(農業振興審議会)
- 計画の基本になるのは営農継続していくために必要十分な所得を確保しながら担い手を育成し、目標とする農業産出額を確保する。もって食料を安定的に供給するという使命を果たしながら、あわせて地域を活性化していくということが基本根底にある。(農業振興審議会)
- きちんと儲かるということを前に押し出してやっていくべき。「儲かる」については大賛成。(農業振興審議会)
- しっかりした所得が得られることが大事であるという点について、委員の皆様からの異論はないだろう。ただ、それが「儲かる」という言葉でもって全体の理念を表していることになるかという点、なかなか理解していただけない面がある。(農業振興審議会)
- 儲かることが目標ではない人もいる。(森林審議会)
- 「儲からない」と言いながら仕事をしていると、それを見た子供たちは、絶対には仕事には就かない。発展させるとか、魅力あるっていうと、どうしても他人事に聞こえてしまう。(森林審議会)
- 基本目標の「ふるさとを誇りと思えるように」は、ふるさとを誇りに思っていないように聞こえる。(森林審議会)
- 現場として違和感はない。若く未経験で就労する方へ明るいインパクトを与えるスローガンを掲げてほしい。(水産業振興審議会)
- 「儲かる」という実質的な文言によって、責任が明確になり、県の覚悟や積極性が読み取れるため良い。(水産業振興審議会)

- 「持続的な発展」は基本理念であり、これからも揺るぎなく、不変なものであるため、スローガンには、より具体的な内容とする。
- 「儲かる」だけではなく、産業として「誇れる」ことも表現していく。
- 「力を合わせる」「みんなで実現する」という意味も表現していく。

- 「もうかる」は悪い言葉ではないと思う。「もうかる」は、みんなの力を合わせてもうかる土壌をつくろう、それをみんなでやるぞ、という福島県の気持ちだと個人的には思っている。(地方意見交換会)
- 「もうかる」は露骨すぎるということもあるが分かりやすい。(地方意見交換会)
- 「もうかる」にはポジティブ、ネガティブの二面性があり、山間部でもうからなくても従事している人もいる。「安定した」など二面性のない表現の方が良いのではないかと。(地方意見交換会)

#### 「もうかる」「誇れる」共に創るふくしまの農林水産業と農山漁村（令和3年1月時点）

- この場合の「もうかる」は希望が持てるとか、やっていけるとか、経営が成り立つだとかという意味だ。受けとめ方で違うので、何か定義を入れた方が誤解を受けない。(農業振興審議会)
- 生産者の方は、誇れるものを作ってもうける。よって、「誇れる」、「もうかる」で、「共に創る」というような表現にしてはどうか。(農業振興審議会)
- マイナスのイメージが拭えない。(農業振興審議会)
- 書き込みが足りない。もうかる農山漁村を目指すよう受け取れる。(森林審議会)
- 「もうかる」ことで農林水産業の課題がすべて解決するような道筋になっているように感じる。(森林審議会)
- 儲かることは最終的な目的ではない。キーワードは「安定的」「継続性」なのではないか。(森林審議会)
- 「もうかる」ことは自信につながり、「共に創る」は連携や人を助ける、アイデアを出し合うことにつながりとてもよい。(水産業振興審議会)

- 人により受けとめ方や解釈が違うため、誤解をうけないように表現していく。
- 文章が短すぎるため、伝わるように表現していく。

# 新しい福島県農林水産業振興計画（原案）に関する主な論点（意見）と対応方向

主な論点	対応方向
<p>2. 担い手の確保について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新規就農者を一人前の農家に育てていく支援体制を構築すべき。(農業振興審議会)</li> <li>○ 集落営農組織への支援が必要ではないか。(農業振興審議会)</li>   <li>○ 新規就農者を受け入れる法人等への支援が必要ではないか。(農業振興審議会)</li>   <li>○ 効率よく林業の担い手を確保するには、ターゲットを絞り、興味のある人に的確にアプローチする必要があるのではないか。(森林審議会)</li>   <li>○ 漁業の担い手を確保するため、実習制度の導入や漁業体験等の取り組みを進める必要があるのではないか。(水産業振興審議会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 新規就農者の定着までをフォローする地域のサポート体制づくりを進める。</li> <li>➢ 集落営農については、経営の発展段階に応じた取組を支援し、法人化等を促進する。</li> <li>➢ 雇用就農の受け皿となる農業法人等に対して、高い経営管理能力を有する人材育成研修の実施や雇用労働力確保等の取組を支援する。</li>   <li>➢ 高校生等を対象とした林業現場見学会やインターンシップの実施等による林業就業への意識醸成などに取り組む。</li> <li>➢ 林業にあっては労働安全衛生の確保や福利厚生の実施なども推進する。</li>   <li>➢ 経営的にも魅力ある産業としながら、漁業関係者、県が一体となって就業者を育成・支援するような一連のプログラムを進める。</li> </ul>
<p>3. 子どもたちへの意識醸成について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 小中学生への農業の教育が必要ではないか。(農業振興審議会)</li>   <li>○ 大人ばかりではなく、子どもたちへの担い手対策が必要ではないか。(森林審議会)</li>   <li>○ 小中学生を対象に、より魚に親しみやすい教育活動をすべき。(水産業振興審議会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 職業としての農業を幼少期からステージに合わせて体験し、就農への意識醸成を図る。</li>   <li>➢ 高校生等を対象とした林業現場見学会やインターンシップの実施等による林業就業への意識醸成などに取り組む。(再掲)</li>   <li>➢ 小中学生を対象とした漁業体験学習や水産出前教室等など、将来の就業へつながる取組を支援する。</li> </ul>
<p>4. 農山漁村の維持・発展について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農村をどのように維持していくのか。(農業振興審議会)</li> <li>○ 都市部の人と共創していく仕組みづくりが必要ではないか。(森林審議会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 農村地域においては、地域の農業者や住民が主体となって地域が維持され、持続的に発展していくことが重要であり、地域の実情に応じた主体的活動を支援する。</li> <li>➢ 都市住民も含めた地域内外の様々な方々が、多面的機能の維持・発揮のための活動等に参画する取組を支援する。</li> </ul>

# 新しい福島県農林水産業振興計画（原案）に関する主な論点（意見）と対応方向

## 主な論点

## 対応方向

### 5. 気候変動への対応について

- 地球温暖化に伴う気候変動への適応策に取り組む必要がではないか。（農業振興審議会）
- 温暖化の影響による漁獲対象種の変化について適応策を検討すべき。（水産業振興審議会）

- 地球温暖化等の気候変動に対応した県産農産物の品種開発や生産技術の開発を進める。また、高温耐性のある品種の導入や気候変動に適応する生産技術の導入を促進する。
- 森林整備・保全や森林づくり意識の醸成等を推進するとともに、住宅や非住宅建築物の木造化・木質化による県産材の活用を促進する。
- 成長に優れたエリートツリーの種苗生産体制を確立する。
- 海洋観測等による環境変化の把握及び漁海況予測の高度化などを推進する。

### 6. 新型コロナウイルス感染症への対応について

- 新型コロナウイルス感染症への対応はどうか。（農業振興審議会）
- ローカルな範囲で、安定的な食料の生産と、販売・流通の仕組みが必要ではないか。（農業振興審議会）
- 巣ごもり需要の増加など、今後の動向を見据え、とるべき対応について検討が必要ではないか。（水産業振興審議会）

- 新型コロナウイルス感染症がもたらした新たな社会変革への強靱性を高めながら、本県農林水産業・農山漁村のめざす姿の実現を目指す。
- ※次ページのとおり。

### 7. 成果を測る指標の設定について

- 指標は、他にも設定できないのか。（農業振興審議会）
- 目標値の設定にあっては、関係者で議論していく必要がある。（農業振興審議会）
- 国の政策の下での指標は、しばらくして仕組みが変わる可能性もあるので、福島県ならではの指標も考えるべき。（農業振興審議会）
- 活動指標ではなく、成果指標を掲げるべき。（水産業振興審議会）

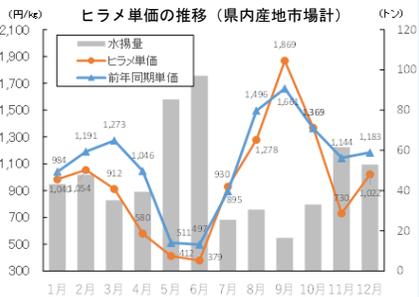
- 新しい計画に掲げるめざす姿の実現に向け、策定後における各政策の進捗状況把握及び評価を適切に行っていくため、それらの基準となる達成目標（指標）を設定する。
- 指標は、統計によらない独自の指標を含め、各政策・施策における具体的な取組を包括し概ね全体を表すものを設定する。
- 国の制度変更等で指標の継続的活用が困難となる場合などには、必要に応じて見直しを検討する。

# 新型コロナウイルス感染症に起因する影響と新しい計画における方向性（案）

新型コロナウイルス感染症がもたらした新たな社会変革への強靱性を高めながら、本県農林水産業・農山漁村のめざす姿の実現を目指す

## 【影響】

- 牛肉、花き、魚介類等の需要低迷
- 米の需要低迷
- 木材需要の減退 等



県産米の相対取引価格（年産平均価格）  
(単位：円/60kg)

品種銘柄	2年産米	元年産米	2年産米-元年産米
コシヒカリ(中通り)	13,677	15,360	▲1,683 (▲11%)
ひとめぼれ	13,821	14,924	▲1,103 (▲7%)
天のつぶさ	13,116	14,461	▲1,345 (▲9%)
(参考) 全国全銘柄平均	15,001	15,720	▲719 (▲5%)

資料：農林水産省「米穀の取引に関する報告」  
※2年産米は出回りから2年12月までの平均価格  
※元年産米は出回りから2年8月までの平均価格

## 緊急的な対応

### 農林漁業者の経営や生産支援

- 収入保険料助成及び加入促進
- 人材不足の解消支援
- 飼料用米転換への助成
- 肉用牛導入経費助成
- 魚類の放流経費助成
- 大径原木加工施設整備助成
- 燃料用丸太転換への助成

### 需要や消費の喚起支援

- オンラインストアにおけるキャンペーン
- 県産花きの利用拡大・定着
- 県産牛肉・地鶏・水産物の学校給食への提供 等



※感染が終息していないことから、引き続き注視していく必要。

## 【新しい計画における方向性】

- 本県農林水産業・農山漁村のめざす姿の実現に向け、感染症の拡大で顕在化した課題や「新たな生活様式」を踏まえた視点を施策に盛り込んでいく
- 具体的には、感染症などリスクへの強靱性を高めながら、「新たな生活様式」を踏まえたふくしまならではの強み・特性を発揮していく

## 中長期的な対策

- **事業継続計画(BCP)策定支援**や、**農林漁業経営のセーフティネット加入促進**など経営の安定・強化

➡「第2節 多様な担い手の確保・育成」4 経営の安定・強化

- 食料供給産地としての役割を果たすため、**生産基盤の維持・強化**や**産地の生産力強化**

➡「第3節 生産基盤の確保・整備と試験研究の推進」、「第5節 戦略的な生産活動の展開」

- 原料の国産への切り替えの動きへの対応など業務用需要への対応として、**食品産業と産地の連携の支援**

➡「第4節 需要を創出する流通・販路戦略の実践」、「第5節 戦略的な生産活動の展開」

- 持続可能な生産を続けるには国産・地元産の積極的な利用など、流通・消費側の理解と行動が欠かせないため、**農林水産業などの重要性の理解促進**

➡「第6節 活力と魅力ある農山漁村の創生」1 農林水産業・農山漁村に対する意識醸成と理解促進

- 地方移住への関心が高まっているこの機を捉え、**新規就農・就業者の確保の促進**

➡「第2節 多様な担い手の確保・育成」